

田畑の草種

鷺苔 (サギゴケ)

サギゴケ科サギゴケ属の多年草。在来種で北海道から九州までの日当たりの良いやや湿った畦畔や芝地、草地などで生育。匍匐茎で広がり、群生していることが多い。背丈は10～15cm。花期は春から初夏、花色はまれに白色がみられるがほとんどは紅紫色で、その花色から別名ムラサキサギゴケともいう。長さ1.5～2cm、上にめくれて深裂した小さな上唇と、3裂した大きな下唇からなる唇形花で、下唇の中央部は隆起し黄褐色の目立つ斑紋がある。

4本の雄蕊と1本の雌蕊があり、雌蕊の柱頭は二枚貝を開いたように2つに割れ、触れると閉じる柱頭運動がある。花粉を確実に取り込むための役割であると考えられるが、春、サギゴケの花を見つけたらすぐそばにあるイネ科の葉の尖った先で開いた柱頭を突いてみるといい。しばらくするとゆっくりと閉じてくるのが確認できる。

全国に「鷺」の字の付く駅は3駅ある。東急電鉄の鷺沼駅と西武新宿線の鷺ノ宮駅、それと筆者の郷里を走る南海高野線にある白鷺駅である。「白鷺」の駅名は、かつて駅周辺の田園に白鷺の群れが多くみられたことが由来である。

白鷺駅ができる前、中百舌鳥運動場前という臨時駅があった。しかしほとんど使われることもなく9年で廃止になった。廃止後、駅舎が取り壊され、ホームの形をした盛土が残った。母の実家がこの先にあったことから、その行き帰りに盛土だけに

(公財)日本植物調節剤研究協会
兵庫試験地 須藤 健一

なった駅の前を電車で通り過ぎることがあった。もちろん駅ではないので停まることはないが、走る電車から車窓を眺めていると、時折、ホームの形をした草に覆われた盛土の向こうに、おそろいの服装で走り回っている人たちが見えた。当時はその人達は何者かは分からなかったが、後になって、彼らはプロ野球団南海ホークス（現 福岡ソフトバンクホークス）の二軍選手たちで、そこは南海ホークスの二軍球場であることを知った。

そのホームの形をした盛土は、いつも丁寧に管理されていた。木が生えることはなく背の高いイネ科やキク科の草が生えることもなかった。いつも盛土のプラットホームの形が維持され、ホームへ上がる斜面もはっきりと分かった。

ある天気の良い春の日、電車が同じようにその盛土のプラットホームの前を走った時、いつもは緑色のプラットホームに薄い紫色が重なって見えた。なんだろうと目を凝らしている間に電車は走り過ぎた。帰路、窓を開け放して目を凝らしていると、プラットホーム一面に紫色の小さな花のようなものが見えた。

白鷺駅ができしてから60年が過ぎ、周辺は大きく変わった。団地が増えショッピングセンターが開設されかつての田園風景は全くなくなってしまった。それでも、春になると駅周辺のちょっとした空き地にはサギゴケの紫色の花が絨毯を敷いたように咲いている。あの盛土のプラットホームに咲いていたのもその紫のサギゴケであったのであろう。

